

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
周辺 地質・地質構造	段丘面	1	第531回	2017.12.8	能登半島では中位段丘 I 面以外の段丘面が認定されているため、それらのデータを用いて、段丘面の高度分布を説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	海水準	2	第531回	2017.12.8	海水準変動について、日本海側の研究事例を説明すること。また、気候変動の調査結果から考察できることがないか検討すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	3	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層の隆起側である福浦港から富来港の間に中位段丘 I 面が分布しないことについて、地形面の成因に関する調査結果をより詳細に説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	4	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層に対応する二つの平行したリニアメント・変動地形について、トレンチ調査結果等を詳しく説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	5	第531回	2017.12.8	富来川南岸断層について、重力異常図や既往研究における高位段丘面の分布標高のギャップが見られるため、詳細な検討結果を示すこと。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	水準測量	6	第531回	2017.12.8	水準点標高の経時変化等も用いて、近年の地殻変動の状況を加えるなど説明性を向上させること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	物理探査	7	第531回	2017.12.8	重力異常図や空中磁気図といった地球物理学的な調査結果と、断層や地質構造との関係について説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	海域	8	第531回	2017.12.8	隆起が認められる地点において、海底地形や海底地質、表層の堆積物がどのような分布、形状になっているのか説明すること。また、それと比較して、隆起に関係しない地点ではどのような違いが認められるのか説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	海域	9	第531回	2017.12.8	B1層及びB2層の年代について、平均堆積速度を用いた層厚推定の妥当性を説明すること。	2021.5.14審査会合
周辺 地質・地質構造	陸域	10	第973回	2021.5.14	各断層の評価にあたっては、地質調査等の結果も踏まえ、断層トレースを明確に示すこと。	
周辺 地質・地質構造	福浦断層	11	第973回	2021.5.14	福浦断層の北端及び南端の評価について、断層位置を明確に示したうえで、分岐の可能性も含めて、延長位置に連続しないことを確実に説明できるデータを示すこと。	
周辺 地質・地質構造	福浦断層	12	第973回	2021.5.14	福浦断層の端部の評価に用いている段丘面については、地質調査データも示すこと。	
周辺 地質・地質構造	長田付近の断層	13	第973回	2021.5.14	長田付近の断層周辺の地質図について、根拠としたルートマップを示すこと。	
周辺 地質・地質構造	和光台南の断層 高ツボリ山北西方 I 高ツボリ山北西方 II 高ツボリ山東方	14	第973回	2021.5.14	和光台南の断層、高ツボリ山北西方 I リニアメント、高ツボリ山北西方 II リニアメント及び高ツボリ山東方リニアメントについて、地形・地質調査のデータを充実させ、文献が図示するリニアメントに対する評価を記載すること。	
周辺 地質・地質構造	高ツボリ山東方	15	第973回	2021.5.14	高ツボリ山東方リニアメントについて、その位置を横断する反射法地震探査のデータも用いて、評価を行うこと。	
周辺 地質・地質構造	碁盤島沖断層 兜岩沖断層	16	第973回	2021.5.14	碁盤島沖断層及び兜岩沖断層の端部の評価について、断層構造が認められないことを確実に確認した測線まで延長することを含め、再検討すること。	

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	17	第973回	2021.5.14	富来川南岸断層の北東端の評価について、断層位置を明確に示したうえで、既往知見との評価の違いも踏まえ、延長位置に連続しないことを確実に説明できるデータを示すこと。	
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層～兜岩冲断層	18	第973回	2021.5.14	海域の基盤岩上面のコンター図を示すこと。	
周辺 地質・地質構造	海域	19	第973回	2021.5.14	陸上ボーリング調査により確認したKktテフラと対比した海域のB1 _L 層が敷地近傍まで連続するとしているが、その根拠に用いた音波探査記録について、No.8.5・S測線だけでなく、海上ボーリングとの対比を行ったNI-10測線を用いて示すこと。	
周辺 地質・地質構造	段丘面	20	第973回	2021.5.14	能登半島の段丘面高度分布について、水準点標高経時変化、2007年能登半島地震時の地殻変動との関係を含む能登半島西岸のデータをより詳細に分析し、周辺の断層や地震性隆起との関係を総合的にとりまとめること。また、富来川南岸断層南西方の基盤岩の分布標高についても示すこと。	